

山下 泰嗣 (やました やすつぐ)



山下牧師のこれまで

- ▶1965年 兵庫県・神戸市生まれ。関西学院中学に入学してキリスト教に惚れ、日本基督教団 神戸神和教会(東島勇気牧師・当時)に通う。高校3年生のときに受洗。
- ▶1989年 関西学院大学法学部を卒業して、出版・情報の大手企業に就職。
- ▶1995年 東京転勤中に起こった阪神大震災を機に、献身の決意が与えられ、1996年東京神学大学2年次編入。
- ▶1999年 東京神学大学卒業と同時に、補教師(伝道師)の資格で、日本基督教団江戸川松江教会の主任担任教師として赴任。また、東京神学大学大学院に進学。
- ▶2001年 東京神学大学大学院修了。



御言葉を「これが真実です!」と語ることこそ、牧師の特権。 すべての労苦は拭い去られ、大きな恵みが与えられる。

学 生時代から折りにふれ、神和教会の東島先生から「牧師にならないか」「神学部に行かないか」と薦められていました。しかし、全くそのつもりはなく、大学卒業後のサラリーマン生活もぞんぶんに謳歌。3年目に東京に転勤しましたが、会社の寮の近くの川崎教会に通い、教会学校教師や役員を務めながら「教会員として教会を支えることが私の役割だ」と信じて疑いませんでした。

そんなある日、正確には1995年1月17日、阪神大震災が発生。私の実家は半壊、母教会である神和教会は全壊でした。神戸に駆けつけ、がれきに囲まれた教会の庭で礼拝に出席したとき、ある確信が与えられました。“すべてが崩れ去っても信仰は残る”。このこと、つまり「どんな破壊的な力に出会っても、最後まで残る神さまの真実」を伝えたい、伝道者になりたいという思いが与えられた瞬間でした。

幸いなことに周囲も賛成してくれ、働きながら1年間準備して、東神大に入学しました。しかしながら、地震のために建て替えた実家のローンを背負い、職を辞した身での学生生活では、大学院に進むのは経済的に厳しい状況でした。

ところが、神さまは整えてくださいます。教授陣が手を尽くして探して下さったところ、「牧師が隠退するので、大学院生の伝道師でも主任として招聘したい」という教会が現れたのです。それが、ここ、江戸川松江教会でした。

「神学が続けられる!」とほっとしたのもつかの間、大学院生と主任牧師の二足のわらじは、想像以上にたいへんでした。説教は、教会学校の幼小科、中高科、主日礼拝、夕礼拝と日曜日ごとに4回。木曜日の聖書研究祈祷会の準備も必要です。信徒の方々は状況を理解して、個別にじっくりお話できないこと、訪問できないことなどを我慢してくださいました。でも信徒以外に、近くの競艇場から「3日間何も食べていない」という方が訪ねてきたり、電話帳で調べるのか、深夜から明け方まで「死にたい」と繰り返す電話が

かかってくることもしばしば。翌日、朦朧とした頭で大学院の試験に挑んだことも一度や二度ではありません。

体力的にはギリギリでしたが、不思議と「もうダメだ」とは思いませんでした。思い悩むよりも、「神さまは私をどんな牧師にしてくださるのか」とワクワクする気持ちの方が大きかったからです。私には足りないことばかりですが、神さまは、足りない私をここに立たせて下さった。だから、私も神さまに委ねました。「果たすことのできる責任だから、担わせてもらっているのだ」と。

なによりも、説教すること、御言葉を語ることが私自身を養ってくれました。聖書を語り「このことは本当です! 真実です!」と信仰を言いあらわし、心からアーメンと唱える喜びは、なにものにも代えがたい伝道者の特権です。どんな労苦も、困難も、この喜びの前にすべて拭い去られます。

もし一度でも牧師になることを考えたのなら、ならなければ損です! 献身を考えている皆さんには、ぜひ、この素晴らしい恵みの感覚を味わっていただきたいと思います。

山下牧師のある1週間

日	教会学校幼小科、中高科、主日礼拝、夕礼拝の説教。役員会など教会の各委員会
月	東京神学大学の公開夜間神学講座(於:日本基督教団銀座教会)で事務局、主事を務める
火	教会の事務作業、聖書研究や説教の準備
水	教会の事務作業、聖書研究や説教の準備
木	夜 聖書研究祈祷会
金	東京神学大学の公開夜間神学講座(於:日本基督教団銀座教会)で事務局、主事を務める
土	説教の準備、週報印刷など

その他:教会員の訪問(随時)。娘の保育園への送り迎え、家事・育児も分担して行う。

